

田中 豊

**培養肉の受容を決定する心理的要因と  
リスクリテラシー修得度による態度の差異**

本研究の第1の目的は、培養肉の受容について、リスク認知、ベネフィット認知、信頼、不安、怒り、生命倫理観の6つの心理的要因からある程度説明できることを、心理モデルの解析により検証することである。第2の目的は、リスクリテラシーの高い者は低い者に比べて、上述の6つの要因や受容の態度に関して、よりポジティブな態度を持っていることを示すことである。大阪府にある大学の学部生169名を対象に社会調査を実施した。その結果、上述の6つの心理的要因から作成された最終モデルは、個人的受容の場合も社会的受容の場合もデータに良く適合しており、個人的受容や社会的受容をある程度説明できることが示された。またクリテラシーの高い者の方が、培養肉はより安全で、よりベネフィットがあり、より人間が立ち入って良い科学技術であり、より怒りを感じず、より個人的に食べたいという態度を取っていることも明らかにされた。

山田 章

## 「発達障害グレーゾーン」をスクリーニングするためのアンケート開発の研究

発達障害者支援法が制定されたことにより、喫緊の課題として多くの研究が行われ、発達障害と診断された学生への支援は徐々に進展してきている。しかし、発達障害の傾向があるが診断基準を満たしていない状態の学生、いわゆるグレーゾーンである学生についての研究・支援は、ほとんど手つかずの状態である。

それには、まず、グレーゾーンの学生の早期発見の研究が、教育的支援の手始めとなる。それを実行するためには、医療に頼ることなく簡便に早期発見を行うことができる評価テストやチェックリストの作成などが必要である。

そこで本論文では、大学生活での新生活が始まり大学との不適合が起こってしまう前に、新1年生全体に対して発達障害グレーゾーンのスクリーニングを行いグレーゾーンの学生を早期発見する方法の研究に取り組んだ。その結果、最近の大学生の「発達障害意識に関する意識」が進んできていることを前提に、質問紙法（アンケート）によって本人自身から本人の情報を得て、それを元に発達障害グレーゾーンをスクリーニングする方法を開発した。

野口 隆

## 明智光秀の母と八上城攻略

明智光秀が本能寺の変を起こした要因については諸説が存する。その中に、光秀が丹波八上城を攻略するべく自分の母を人質にしたところ、織田信長が横暴であったために母が殺されてしまい、それで光秀が信長を恨んだ、というものもある。しかしこの所伝は史実ではなく、文学作品における創作が次第に成長したものであると考えられる。

太田牛一の『信長公記』は、早期に成立したもので史料性も高いと評価されているが、そこには光秀は「調略」によって八上城を陥落させたとのみ記されていて、人質云々の記述はない。ところが軍学者の遠山信春が著した『総見記』には、光秀が母を人質とする謀略によって八上城を陥落させた旨が記されている。これは文学的な虚構であろう。ただそこでは、光秀が自ら謀略を発案し実行しており、信長への遺恨と関係づけられてはいない。ところが実録『太閤真蹟記』では、『総見記』の内容に更に、光秀は母を奪還するつもりであったが信長の短慮のために母が惨殺されてしまったという要素が増補され、それで光秀は信長を恨んだとしている。この内容は読者を納得させるものであったようで、以後の作品にも継承された。明治期以降にも光秀の母が八上城で殺されると描いた作品は多く、そこに新たな場面が創作されることもあった。岡本綺堂の戯曲『明智光秀』がその一例である。

横山 輝樹

## 江戸幕府武芸奨励と若年寄 —「武芸掛若年寄」についての考察—

本論は江戸幕府が幕臣、特に上級幕臣である旗本で構成された軍事部隊である五番方（旗本五番方、書院番・小性組・大番・新番・小十人組という五種類の軍事部隊）に課した武芸奨励のなかで若年寄が果たした役割について考察しようとするものである。五番方に対する武芸奨励について記された史料には度々若年寄が登場する。若年寄とは幕府の重職であり、幕府に直轄する軍事部隊を数多く支配下に置いている。武芸奨励に関する史料に若年寄が頻出するのはそうした理由からであるが、反面、若年寄が武芸奨励のなかで果たした役割を把握することなしに武芸奨励を解き明かすことはできないのである。

本論では、小性組の業務などを内容別にまとめた「御小性組方例書私録」（国立公文書館所蔵）なる古記録を主たる史料として、吉宗期前半の武芸奨励を支えた若年寄大久保常春をはじめ、その後任となった若年寄の働きについて分析を進めた。その結果、吉宗期には「武芸掛若年寄」とでも呼ぶべき、武芸奨励専管の若年寄が設置されていたことを突き止めたのである。若年寄は一ヶ月交替で複数の若年寄が順繰りで業務にあたるのが普通であるが（月番）、武芸奨励については月番とは無関係に、特定の若年寄が武芸奨励に関する業務をほぼ一手に引き受けているのである。その代表例こそが前述の大久保常春である。大久保常春をはじめ「武芸掛若年寄」たちは五番方を率いる番頭に対して、武芸奨励に関する指示を与え続けている。しかし一方で、五番方に属する番士を対象とした武芸見分（武芸の試験）を実施するのは番頭のみであり、「武芸掛若年寄」を含めた若年寄が武芸見分を実施することはなかった。すなわち若年寄と番頭は武芸奨励において互いの役割を分かち合っているということである。こうした分掌は吉宗期以前にはみられないものであると考えられる。

## 2023年度 人文自然学会研究会

今年度も総会と同日2024年2月26日(月)の午後1時～午後2時に Zoom 開催とした。情報学部 寺井正幸教授の司会で情報学部 松田潤教授の発表があった。発表題目と要旨は以下のとおりである。

### アプリケーション企画・開発の実践

本発表では、アプリ企画・開発の教育と並行して自身でも実践してきたことをいくつか紹介させていただく[1]。

#### 1. 授業の UX デザイン

アプリ／サービスの企画・開発・運用の全行程における羅針盤として、UX デザインがある。UX デザインでは、ユーザに提供しようとする体験 (UX : User Experience) を計画し、それに沿ってアプリ／サービスを企画・開発・運用する。授業もサービスの一つであり、受講生にどのような体験を提供するのかが UX として計画し、それに沿って授業をデザイン・実施することが求められる。担当科目「アプリケーション開発入門」では、受講生の創造力を刺激することで、「自分でもアプリを作ってみよう」という意欲に繋がることを目標に授業をデザインしている。UX デザインにおけるユーザ調査に倣って、毎年初回授業で受講生の履修の目的・期待を調査し、その後も、受講生の反応をフィードバックしながら授業の UX デザインを進めている。

#### 2. アイデア発想支援アプリ

アプリ企画において要となるのがアイデアの発想である。多くの企画のプロが経験則として、「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせであり、資料集め→資料咀嚼→(化学反応)→アイデア誕生→現実条件への適合化の段階を経て作られる」と指摘している。アイデア作成過程の最初の段階で使用するツールとして、連想検索機能を備えたメモ帳アプリを企画・開発した。連想検索では、検索条件を予め指定せず、メモ内容を元に次々と関連メモを芋づる式に抽出する。

#### 3. 講義受講支援アプリ

講義内容の理解が困難な聴覚障害受講生を支援するため、音声をリアルタイムで字幕として表示する Web アプリを企画・開発した。さらに、留学生の受講を支援するため、字幕をそれぞれの母国語に翻訳して表示する機能拡張を行った。

#### 4. 卒論概要閲覧アプリ

毎年度の卒論概要一覧 CD-ROM をゼミ等で利活用するため、データベース化し、情報学部の全卒論概要を閲覧できる Web アプリを企画・開発した。

#### 5. ゲームアプリ

視線入力を利用するアプリに必要な Calibration (ユーザ毎の視線追跡機能の調整) を楽しみ

ながら行えるゲームアプリを企画・開発した。

アプリ企画・開発を実践してきて、「アプリを取り巻く環境変化の速さ」と「アプリ企画・開発には課題解決力だけでなく課題発見力が求められること」「アプリは巨人の肩の上に立っていること」を今更ながら実感している。これからも生成 AI など様々な技術の進歩と社会・個人のニーズを取り込みながら進化し続けるアプリの発展がますます楽しみである。

[1] 発表資料 <https://jinbun-sizen.onrender.com/>

## 2023年度 人文自然学会総会

定期総会が2024年2月26日(月)に開催された。今年度も例年通り9時から15時30分に OGU-Caddie 上に提出の議案の承認という形で行った。以下の案件について、OGU-Caddie 上で質疑応答、および、審議・報告を行った。審議事項は議案書通り承認された。

開催年月日：2024年2月26日(月)

開催場所：OGU-Caddie

出席者：35名

欠席者：4名

### 議 事

淡会長が議長となり、OGU-Caddie により午前9時00分開会を宣した後、議事に入った。

#### 審議事項

##### 役員の変更

議長より、2024年度の役員について次の通り提案があり、審議の結果、全員了承した。

会 長 淡 誠一郎 (情報学部) 継続 2023.4.1. ~2025.3.31.

副 会 長 佐野 学 (情報学部) 継続 2023.4.1. ~2025.3.31.

庶務委員 中山 麻耶 (経営実務科) 継続 2023.4.1. ~2025.3.31.

庶務委員 吉山 昭 (情報学部) 新規 2024.4.1. ~2026.3.31.

編集委員 竹井恵美子 (国際学部) 新規 2024.4.1. ~2026.3.31.

編集委員 横山 輝樹 (法学部) 継続 2023.4.1. ~2025.3.31.

#### 報告事項

##### 1. 2023年度事業報告

議長より、次の通り報告があった。

###### (1) 人文自然学会総会

2024年2月26日(月) OGU-Caddie にて開催

###### (2) 人文自然学会研究会の開催

2024年2月26日(月) Zoom にて開催

###### (3) 定例役員会の開催

全10回 (第377回~第386回)

###### (4) 学会誌の発行

2023年12月に「大阪学院大学人文自然論叢 (第87号)」を発行

2024年3月に「大阪学院大学人文自然論叢 (第88号)」を発行予定

##### 2. 2024年度 事業計画

議長より、次の通り報告があった。

###### (1) 人文自然学会総会の開催

(2) 人文自然学会研究会の開催

(3) 学会誌の発行

「大阪学院大学人文自然論叢（第89号）」・「大阪学院大学人文自然論叢（第90号）」  
の発行を予定。

### 3. 会員異動

(1) 2023年度新会員の紹介

池上真悠子（経営実務科）

伊藤 隆（経営学部）

井上 洋一（経済学部）

工藤 泰子（商学部）

西 壽巳（情報学部）

ヤング太田美穂（国際センター）

(2) 退会会員の紹介（2024年3月31日付）

岩岡 真弘（経済学部）

松田 潤（情報学部）

以上をもって議長は、本日の議事を終了し午後3時30分閉会を宣した。



## 執筆者紹介

田 中 豊 (情報学部) 教授  
山 田 章 (教育開発支援センター) 講師  
野 口 隆 (経済学部) 教授  
横 山 輝 樹 (法学部) 講師

## 大阪学院大学人文自然学会会員 (2024年3月31日現在)

秋田 亨	情報学部	池上真悠子	経営実務科	伊藤 隆	経営学部
井上 洋一	経済学部	岩岡 眞弘	経済学部	上地 宏	商学部
上原 邦昭	経営学部	梅田 享	外国語学部	大谷 朗	情報学部
小野寺秀俊	情報学部	川本 芳久	情報学部	神戸 尚志	情報学部
工藤 泰子	商学部	佐野 学	情報学部	杉山 伸一	商学部
角田 聡	経済学部	竹井恵美子	国際学部	田中 豊	情報学部
谷口 高士	情報学部	淡 誠一郎	情報学部	寺井 正幸	情報学部
豊永 昌彦	情報学部	中西 朗	商学部	中山 麻耶	経営実務科
西 壽巳	情報学部	西田 知博	情報学部	野口 隆	経済学部
増田 ゆか	経営実務科	松尾信之介	経済学部	松田 潤	情報学部
森井 紳	商学部	山内 武	経済学部	山口 雅之	経営実務科
山下 博志	情報学部	山田 章	教育開発支援センター	ヤング太田美穂	国際センター
横山 輝樹	法学部	吉山 昭	情報学部	渡辺千香子	国際学部

(50音順)

## 大阪学院大学人文自然学会役員

会 長 淡 誠一郎 (情報学部)  
副 会 長 佐 野 学 (情報学部)  
庶務委員 川 本 芳 久 (情報学部) 中 山 麻 耶 (経営実務科)  
編集委員 山 下 博 志 (情報学部) 横 山 輝 樹 (法学部)

2024年3月25日 印刷

2024年3月31日 発行

編集兼 大阪学院大学  
発行者 人文自然学会

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号  
TEL 06 (6381) 8434代

印刷所 大枝印刷株式会社

〒564-0031 大阪府吹田市元町28番7号  
TEL 06 (6381) 3395代

**THE BULLETIN  
OF  
THE CULTURAL AND NATURAL SCIENCES  
IN  
OSAKA GAKUIN UNIVERSITY**

No. 88

March 2024

CONTENTS

**Articles**

Yutaka Tanaka

- Psychological Factors Determining Acceptance of Cultured Meat and Attitude  
Differences by Level of Risk-Literacy Mastery ..... 1

Teruki Yokoyama

- The Role of the Wakadoshiyori in the Martial Arts Promotion Policy Implemented  
Within the Edo Shogunate – Thoughts on Wakadoshiyori, Who is in Charge of  
Promotoing Martial Arts – ..... 70

**Note**

Akira Yamada

- Development of a Questionnaire for Screening Gray Zone of Developmental  
Disabilities ..... 13

Takashi Noguchi

- Akechi Mitsuhide's Mother and the Attack on Yagami-jo Castle ..... 48

**News** ..... 71

**Summaries** ..... 75